

この悪魔ライダーに契約を！

花タフ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

悪魔 それは誰しもが心に宿し体内に飼っている魔物
今1人の冒険者が悪魔と契約する。

注

バイス誕生の仕方やバイスタンプ リバイスドライバーの扱いは
本編仮面ライダーバイスとは異なることをご了承ください

そして題材にしてるのが現在放送中の仮面ライダーバイスなの
で投稿頻度は遅くなると思います

なるべくオリジナル設定は付けず本編の設定などを上手く入れて
いこうと思います

目次

この冒険者に契約を！	1
この謎なやつの正体を	14
このライダー博士に説明を	22
この冒険者 ヤバいんじや！	39
この悪魔にクエストを	54
人間関係！仲良くせい！	65
この誘拐に救済を	85
番外編 花タフとこのすばメンバーのライダー映画感想言う回	97
仮面ライダーリバイスの名場面をこのすばメンツで再現	101

この冒険者に契約を！

この冒険者に契約を

悪魔

それは人間誰しもが心に宿し体内にかかっている魔物

今

1人の冒険者が悪魔と契約する！

ここは異世界の街アクセル

そこにあるひとつの屋敷にはある冒険者が住んでいる

その冒険者パーティはリーダーは最弱職の冒険者

メンバーはアークプリーストにアークウィザードそしてクルセイ
ダーと上級職なのだが、、

カ「いかんせんダメダメなんだよ、、、
駄女神に？爆裂娘に？変態クルセイダー？、、、あー！なんで俺の
異世界生活はこんななんだよー！」

ア「朝っぱら何騒いでるのよ！」

め「そうですよ 近所迷惑になります」

カ「うるさい！誰のせいだと思ってるんだ！」

ダ「まあまあ 落ち着け カズマもクエストの疲れなどが残ってス
トレスなんだろう、、、わ 私なら そのストレスの捌け口になつて
も、、、／／／」

カ「結構です」

ダ「くつ／／／、、、さ さすが カズマだ、、、焦らしプレイと
は、、、」

カ「はあ、、、でもクエスト疲れつてのは本当だからな 今日はい
日自由でいいぞ」

ア「本当！なら 朝からシユワシユワ！」

とアクアは一目散に自分の部屋へと向かった

カ「、、、あいつ朝っぱらから飲む気がよ、、、」

ダ「それじゃあ 私はクリスに会ってくる」

カ「おう 行ってらー」

…さてとどうするか…今日は久々にサキユバスのお姉さんにお世話になるのもいいな…

め「カズマ カズマ」カ「はいカズマです」

め「今日の爆裂散歩に行きましょう！」

カ「ええー 嫌だ」

め「カズマ行きましょう でないと今ここで打つことになりますよ」

カ「まてまてまて！それはやめてくれ！」

め「エクспロージョン！」

めぐみんはいつものように使われてない廃城目掛けていつものように爆裂魔法を放つ

め「あう」

カ「うーん 今日の爆裂魔法は少しいまいちな…もうちよい熱風が欲しかった」

め「ぐう 今後の課題ですね」

カ「今日のは多く見積って64点だな」

め「うう 次こそは100点を目指しますよ…そしてカズマ おんぶお願いします」

カ「はいはい よいしょっと」

め「いつもありがとうございます」

カ「別にいいよ、、そうだ めぐみんちよつとウイズの店に寄りた
いんだがいいか？」

め「いいですよ なにか用があるんですか？」

カ「まあちよつとな」

? 「お前、、そうやっておんぶして

胸の感触感じてやがんなあー すげべななヤツ すげべなヤツ！」

カ「はあ!? 誰がそんなこと！」

め「わあ! なんですかカズマ 急に大きな声を出さないでください
い」

カ「え? 今のお前じゃないのか」

め「なんのことですか!」

カ「、、いや なんでもない」

謎に聞こえてきた声はなんだったのか謎だったが 俺たちはウイズの店へと向かった

だがこの決断が俺の人生を大きく変えるとはこの時の俺はまだ知る由もなかった

ウ「いらつしやいませー

あ！カズマさん めぐみさんどうも」

カ「よつ ウイズ 」

ウ「今お茶を入れてきますね」

とウイズは店の奥の方へ行つた

カ「相変わらず いっぱい商品があるな なになに魔よけのポーション これを飲むことにより魔物に近づかれなくなる、、、ただし飲んだあと悪臭が体から出るのので人にも近づかれなくなる、、、売れるかはあれだがな、、、ん？」

ウイズの店の商品を一通り見ていた時

ある物に目が止まった

それはまるでスタンプラリーなどで使われるぐらいの大きさのスタンプがあった

カ「これ、、、スタンプか？」

底部分に まるで恐竜のような刻印が彫られていたそして

カ「んで もうひとつは、、、ベルト？」

その近くに派手な色をしたまるでベルトのような物が置いてあった

ウ「お待たせしましたー、、、カズマさん？」

カ「ん？ああ そこに置いてあったんだ これ見た感じスタンプとベルト？っほいけど」

ウ「ああ そのスタンプのようなもの
ある人から受け取った物なんです」
め「ある人？」

ウ「はい あれは数週間前のことです
私は魔道具を仕入れるために少し街まで行ったんです。そこ
で、、」

回想

? 「あーちよつとそこのお姉さん」
ウ「？」
? 「あなたですよ あなた」
ウ「わ 私ですか？」
? 「そうだともし 見たところ魔道具の店を行ったり見たりしてる
ようだね」

ウ「はい 私お店をやってますよ その商品を買いに」
? 「なるほど、、ではこれなんてどうでしょう」
謎の男はスタンプのようなものとベルトのような物を渡した
ウ「これは、、 あのこれは一体どんな、、え？」

渡された後男の方を見ると

誰もいなかった

ウ「あ あのこれいくらなんですー！」

回想終了

カ「で貰ったものをそのまま商品として飾っていたと」

ウ「はい あとその男の方がいたところにこんな紙があったんです」

め「紙ですか？」

ウ「はい これです」

そこにはこう書かれていた

その2つを使って身を変えることが出来たならこの場所へ来てくれ

と文と地図が書いてあった

カ「身を変える？ どういう事だ？」

ウ「私もさっぱりで1度この紙に書かれていた場所に向かったのですが 何も無かったんですよ」

カ「、、なあウイズ ついにゴミを貰ってきたのか？」

ウ「いえいえ そんなことないはずですよ 魔道具のようなものではありませんがきつときつと何かに使えるんです」

カ「何かねえ、、、、なあウイズ ひとつ聞きたいんだが あのスタンプとベルトには邪悪な魔力とかないよな？」

ウ「え？、、はい呪いのようなものはありませんでしたね」

カ「なるほど、、じゃあ 俺が買い取るよ」

め「え?!大丈夫なんですかカズマ?またその道具でなにか起きてしまうんじゃない」

ウ「いいいんですか!」

カ「ああ 俺もこれについてちよつと興味が湧いてな 自分でも色々調べてみようと思つてな なあこれいくらなんだ?」

め「大丈夫なんですかカズマ?またその道具でなにか起きたら」

カ「まあその時はアクアに払ってもらうとかだな なあウイズこれいくらだ?」

ウ「ああ タダで結構ですよ」

カ「え!」

ウ「私もタダで貰つたものですしそれを金を払わせるのは商人としても気が引けてしまうので」

め「このリッチー変な所で律儀ですね」

カ「そっか じゃあ有難く受け取るよ」

そうして俺たちはスタンプとベルトを譲り貰い 店を後にし館に戻った

そしてその夜

カ「うーん、、、なんなんだ これつて、、、」

め「カズマー入りますよ」

カ「おお めぐみんか いいぞ」

め「失礼します それつてウイズの店から持ってきたやつですか?」

カ「ああ 一応あれから調べてみたんだが どうもな あ でも何個かわかったことがある」

め「なんです?」

カ「まず このスタンプの様なやつの上のどこを押すと」

L E X!

め「おお! 音がなりました!」

カ「そんでスタンプみたいにも押せるということがわかった」

め「その大きい方はどうなんですか?」

カ「こっちは いまいちな でも

こいつはこうやって腰に当てると」

俺が腰に当てるとそいつから帯が飛び出し腰に巻き付く

め「おお!」

カ「こんな感じで自動に着くってことがわかったってとこだ」
め「凄いですね、、、」

カ「ああ でもな なにか物足りないんだよな、、、ん?」

俺はふと下の方に視線をずらす すると

まるでスタンプを押すような白い四角のスペースがあった

カ「もしかして、、、 ふんー!」

俺はそのスペースにスタンプを押印した

すると

C o m e o n L L L L L E X !
C o m e o n L L L L L E X !

め「わあ！」

カ「なんだ!？」

突如にスタンプから音が流れ出る

すると

? 「なあ! そのベルトの端にはめれそうじゃね?」

カ「だ 誰だ!」

またあの声だ、、端にはめる、、

俺はそのままスタンプをベルトの端にはめた

そして 傾ける

B u d d y u p !

オーイング! ショーニング !

ローイング！　ゴーイング！

仮面ライダー！　リバイ！　バイス！

リバイス！

カ「、、、　一体何が起こったんだよ、、、」

め「か、、、カズマ、、、」

カ「ん？　どうしたためぐみん」

め「どうしたも何も自分の姿見てくださいよ！」

カ「自分の姿って、、、」

俺は自分の体を見ると

カ「は？」

体はピンクと水色の入ったカラー

胸には先程のスタンプに彫ってあった

恐竜の印

顔は白い牙に赤い複眼、、、

そして、隣に

バ「ひやつほーい！ やつと出られたぜ！ ……ん？何さつきからこっち見て やだ！俺っちってそんなに魅力的？」

何かいる

カメ 「ぎやあああああああああああ！」

父さん 母さん 俺

異世界でどうなっちゃってるの――――！！

この謎なやつ の 正体を

この謎なやつ の 正体を

カ「な なななんなんだお前！」

バ「俺っち？ そうです 俺っちが
悪魔さんです」

カ「そんな変なおじさんの流れはいいんだよ！」

め「なんなんですかあれ、、、」

カ「こつちが聞きたいよ」

ア「うるっさいわねー今何時だと、、、」

と俺達の声を聞いてきたアクアが部屋に入ってくる

ア「、、、へ？」

カ「あ」

バ「？なに 俺っちのこと見て」

ア「、、、誰？」

かくかくしかじか

ア「なるほどねえ そのベルトを使ったらこの姿になっちゃったと」

カ「…、まあそんなところだ」

バ「んー」

俺の姿が変わったと同時に現れたあいつは何故か俺のベットに寝転がっている

カ「…、それと …、おい！」

バ「ん？なに？俺つちのこと呼んだ？」

カ「ああ お前一体なんなんだよ」

バ「俺つち？俺つちはね

悪魔だよ」

カ め「悪魔!？」

ア「なあんですってえ！」

バ「俺つちは その兄ちゃんの心に宿ってた悪魔なんだ そして今俺つちは開放された…、つまり 暴れまくってやるぞ」

ア「ターンアンデッド」

バ「ぎやあああああ！」

ちよつと！いきなり何するの！」

ア「な!?私のターンアンデッドが効かないなんて」

カ「いや ぎやああああ！って言ってたぞ」

め「…、あなた 本当に悪魔なんですか 名前は？」

バ「ん？俺つちに名前はないぜ」

め「そうなんですネ…、ならば私がとてつもなくかつこいい名前をを考えてあげましょう！」

カ「はいはい それは後でやってくれ…、で…、一体俺はどうすれば元に戻るんだ…、」

俺はベルトを少しいじる

そして ベルトに刺さったスタンプを

1度傾けたあとにスタンプを抜いた

バ「ん？え！ちよつと待ってー！吸い込まれるーー！」

それと同時にあの悪魔らしきやつがおれのなかにはいつていった

カ「うお！ …、って元に戻ってる！」

バ「ちえ！ せつかく自由になったと思っただのに」

カ「うおわ！ お前！」

カズマの体から幽霊のように飛び出る

ア「カズマ そこに抑えてなさい！今浄化してあげる」

め「ちよつと！2人とも何が見えてるんですか！」

と言ったことがあった

その後とりあえず状況が落ち着いたので 眠りにつくことにした

次の日

カ「、、、結局寝れなかった」

バ「寝不足か？寝不足はお肌に悪いんだぜ？何か原因があったのか？」

カ「お前のせいだよ！お前の！、、、はあ」

カ（こいつ、、、一体なんだってんだよ、、、アクアにも浄化出来ない悪魔ってなんなんだ、、、）

と俺はベットから起き ふくにきがえようとする

その時 ふと机に置いてあった紙に目がいく

カ「これって ウイズにこれらを貰った時に一緒に貰った紙、、、」

バ「ん？なにになに？お宝の地図か？」

確か 身を変えることが出来たならここに来いとか、、、ん？身を変え、、、

カ「もしかして、、、」

平原side

ア「ねえ、カズマー遠くないですかー」

カ「あとちよつとだ 我慢しろ」

バ「なあなあ そこに向かって何をやる気なんだ？」

カ「お前は少し引つ込んでろ」

ダ「?どうしたんだ 急に」

カ(そっか ダクネスは昨日のことを知らないんだったな、、)

カ「ああ いや なんでもない」

と走行している間に

カ「、、、ここか」

地図によるとここなんだが、、、

カ「、、、確かに何も無いな」

め「結局その地図はなんなんだったんです？」

カ「わからん、、、」

バ「、、、んー?ねえ カズマ!ここになにか穴があるぜ!」

カ「はあ?そんなのどこにも、、、」

と俺はあいつが指さす地面を見たら

ベルトにスタンプを指し傾ける

B u d d y u p

オーイング！ショーニング！

ローイング！ゴーイング！

仮面ライダー！リバイ バイス

リバイス！

バ「はあゝい よいしょっと！」

カ「、、、！」

その時だった

突如草原の地面の下から

階段のようなものが現れた

め「なんです この階段、、、」

ダ「な！ な か カズマ！一体その姿は、、、」

カ「ああ、、、実はな」

かくかくしかじか

ダ「なるほど、そのベルトを使うとそのように姿を変え あの悪魔を呼び出せるということか」

カ「ああ でもなんでこれで変わるとこいつが実態を持つのか分からないねえ」

バ「なあなあ！そんなことよりもよ！この下行ってみようぜ！」

とあの悪魔が1人で行ってしまった

カ「あ！おいて！悪魔！」

ア「ちよつと！女神よりも先に行くなんて 悪魔のくせに！」

め「ああ 2人とも置いてかないでください！」

そして俺たちはあいつを追うように地下の方へと行くのであった

このライダー博士に説明を

このライダー博士に説明を

俺たちは地図に書いてあつた場所行き

そこであの姿になるとなんと 地下に続く階段が現れた 果たしてそこには何が

カ「、、、 だいぶ降りてきたけど まだつかないのか」

バ「ねえ 真っ暗なんですけどー

俺っち 真っ暗こわーい」

ア「悪魔が何を言ってるのよ、、、」

ダ「、、、というか 珍しいな ウイズの時同様悪魔が目の前に現れたらすぐ浄化しようとするアクアが大人しいなんて」

ア「それがこいつ何度も何度も浄化しても ぜんっぜん 消えないんですもの」

バ「へへー 俺っちを倒したければこのカズマを殺せば早い手段かもねー」

カ「はあ!? なんでだよ!」

バ「カズマが死んだら俺っちも死ぬって訳」

ア「なるほど、、、カズマそこを動かないでちょうだい、、、大丈夫すぐにリザレクションをしてあげるから」

カ「そんな簡単に自分の命差し出せる訳ないだろ! こいつのはら

い方は他にもあるかもしれないだろ！だから俺を殺すという選択肢は二度と使うなよ」

ア「いやねえ カズマ 冗談よ冗談、、 はんぶん」

カ「おい」

バ「！ねえねえ！見てみて！あそこになんかドアがあるぜ！」
といつの間にか俺たちはその地下の最深部に来ていたようだ
め「本当ですね、、 鍵は、、」

とめぐみんがドアノブを握り開けようとする

め「！開いてますね、、」

カ「なんとも不用心なとこだな、、」

バ「いや 地下に隠してる時点で結構用心だと思うぜ」

カ「、、、なんか論破された気分だ」

と俺たちはそのドアをあけ中に入る

カ「、、、これって、、、研究室か」

め「そのようですね、、、ですが」

ダ「ああ 見るからに新しい物のようだ」

ア「つてところは誰かいるのかしら」

?「Hey 誰だい? 人のラボに立ち入る 輩は」

カ「!だ 誰だ!」

バ「なになに 敵か!」

?「、、、 ふっははは

なあんてね 君たちがここに入ってきたことは知ってるとも 何
せここに招いたのは 私なのだからね」

と研究室の奥から

メガネをした若い博士?のような人が
出てくる

め「招いた、、、とは」

?「 さて 自己紹介をしよう

私は ジョージ 狩崎 そのベルトの開発者だ」

ダ「ジョージ狩崎、ここらじゃ聞かない名だな」

カ「、、つてまで ベルトの開発者つてこれつてあんたが作ったのか、、！もしかしてこれをウイズにあげたのは」

ジ「ああ 私だ」

め「、、なぜウイズに渡したのです」

ジ「いや 実の所商人の誰でもよかったんだ 商人に渡りまた人へ人へと流れてゆき 変身できるものがここに訪れるのを待つてたんだ」

カ「待つてたつて、、つてそうだそもそもこれはなんなんだよ！スタンプ傾けたら姿変わるわ悪魔出てくるわ」

ジ「それはそのドライバーのおかげさ」

私が作り上げた最高傑作

リバースドライバー！のね」

カ「リバイス、、、ドライバー」

ジ「そして今変身している君たちは、、、

仮面ライダー リバイ

仮面ライダーバイス

合わせて

仮面ライダーリバイスき！」

カ「仮面ライダー、、、リバイス」

バ「、、、？バイスって 俺っちのこと？ やばいつす！超かつこい
い！」

ジ「君は選ばれたんだよ そのドライバーに」

カ「選ばれた、」

ジ「本来そのドライバーは選ばれたものしか使えない。その他の人間が使うと、その使用者の中にいる悪魔が解放され暴れることになる」

カ「そんな危ないもの放り投げたのかよ。こんなやつみたいなのが暴れられたらたまったもんじゃない！」

ジ「だが、君は選ばれた。君は君の悪魔をコントロールする力を得たんだ！」

それを見込んで君に協力来て欲しいことがある

君の持つてるそのバイスタンプという物、実はバイスタンプはあと9個残っているんだ。君にはその回収をしてもらいたいんだ」

カ「回収、」

ジ「ああ、元々私が所有してたのだがこちらの世界に来る際どこかへいつてしまってたね」

カ「（こちらの世界って、、まさかこいつも、、転生者なのか）」

カ「、、いきなり集めろって言われたって素直にはいと言えると思ってるのか」

ダ「その通りだ。我々はまだお前を信用してないぞ」

ジ「、、それもそうだね。ならばこうしよう。そのリバイスドライバーを君にあげよう。それを使えばあらゆる力を手に入れられる。メガロドン、イーグル、ライオン、マンモスなど、、」

君たちは冒険者だ

戦力はあつた方がいいだろう

そしてこちらからリバイスドライバーを提供すると共にバイスタンプの回収をしてもらいたい、、

君たちは力を手にして冒険を楽にできる。私はスタンプが集められて嬉しい

どうだい？WinWinだろ」

カ「、、、」

ア「、、、ねえ さつきから何話してるの」

カ（こいつはそもそも理解してなかった）

カ「、、、確かに こつちとしてもそんな力を貰えるのはありがたいけど

いくらなんでも怪しすぎる、、、

悪いけど その交渉にはのれません

そしてこのドライバーも返します」

バ「ええ！なんでよ！せつかく使えるのに!？」

カ「俺は最弱の冒険者だ 俺以外の選ばれたやつがそれを使えばいい」

ジ「ふむ、、、」

カ「じゃあ 俺たちは帰ります

失礼しました 帰るぞお前ら」

ダ「お おう」

俺たちはその研究室を出て地上に戻った

ジ「、、、ふーむ 困ったものだ また新しく使えるものを探さなきゃいけないとはね、、、 さてまたドライバーとバイスタンプを商人に渡しに、、、ん？

カ「持たなくて結構だ！ お前が暴れられないようにずっとその姿
でいさせてやる」

ダ「、、、一応悪魔と話しているのか？」

め「はたから見たら何も無いところに話しているやばい人みたいで
すけど」

カ「、、、つてかアクア なんかさつきから喋ってないがどうしたん
だ？」

ア「へ？いいいや 別にーなにもー」

カ「、、、お前何か隠してねえか？」

ア「へ？なに なんのことよー」

カ「ステイール」

ア「ああ！ダメよカズマ ダメ！」

アクアにステイールすると手になにか握ったことがあるものが取
れた

カ「！お前これバイスタンプじゃねーか！盗んできたのか！」

ア「だって！それを売って今晚のシユワシユワのお金にしようとし
てたのよ」

カ「ふぎけんな！これは今すぐあの人のところに返すぞ！」

ア「まって まってよカズマー」

とその時

アクセルの入口付近に爆発が起こる

一同「!!」

カ「なんだ！」

め「アクセルの方からです」

ダ「また魔王軍の襲撃か」

ア「ちよつと！みんな待ってよー」

俺たちは急いでアクセルの方へ向かった

アクセル side

ダ「はあ！ つたくなんなんだよ！こいつら 倒しても倒してもキ
リがねえぐらいいやがる！」

リ「ブレード・オブ・ウインド！
本当ね、！ダスト後ろ！」

ダ「!!ちよ」

ク「バインド！」

リ「!クリスさん」

ク「気をつけて こいつらは悪魔だから ；、しかも次々湧いてくるなんて」

ダ「悪魔!? なんでこんなところに」

カ「おーい!みんな無事か!」

ダ「カズマ!いいところに来た お前の起点であいつらどうにかできねえか」

デュラハンの時見てえによ」

カ「んな事言つたつてすぐには」

め「!来ます!」

ア「セイクリッドターンアンデット!」

アクアが突如襲ってきた悪魔に浄化魔法をかけると浄化され消えた

ア「こいつらには効くのね、、」

バ「うっひよー!楽しそうだな!」

カ「お前は出てくんない」

カ(にしてもこいつらなんなんだよ、、ん?)

俺は悪魔たちが次々出るところを見つける

カ「あそこに何かあるのか、」

カ（千里眼！）

千里眼でそこを見てみると

そこには見るにも恐ろしく凶暴な化け物がいた

カ「なっなんだよあいつ、」

め「数が多いなら私の爆裂魔法で吹き飛ばしますよ」

カ「、、ああその方がまだいいかもな　めぐみん！頼む」

め「任された！

黒より黒く闇より黒き漆黒に我が深紅の混合を望みたもう覚醒の時来たれり無謬の境界に落ちし理　無限の歪みとなりて現出せよ！

エクスプロージョン！

めぐみんは悪魔達が湧き出る所へ爆裂魔法を打ち込む

め「あう　燃え尽きろ　紅蓮の中で」

ダ「、、やったのか」

カ「ちよおまそれフラグ」

その時

爆裂魔法が打たれたクレーターから
何かが近づいてくる

カ「!!きつき千里眼で見た、、」

ア「嘘でしょあの爆裂魔法に耐えるなんて」

バ「ほっほほー!あいつ強そうだなー!」

カ「お前は黙ってる!」

そしてやつが現れる

見た目はまるでマンモスと虫の体を混ぜたような見た目をした見
るだけでやばい奴と判断できるやつだった

カ「この間のデウラハンぐらいやばいやつだぞ、、」

ア「見たところあいつも悪魔のようね!なら セイクリッドターン
アングレット!」

アクアはその化け物に魔法をかけるが

ア「なっ!?全然効いてない!」

カ「どうやらあの沢山いた悪魔より強いってことか」

がああああああ！

ジュニア！

化け物が地面に何かを押したその時
同時に多数のあの悪魔達が出現した

カ「！あいつまたあの白い悪魔達を呼びやがった」

ダ「来るぞ！」

俺たちは各々であの悪魔を対処する

め「すみません私が仕留め損なっただばかりに」

カ「お前のせいじゃねえよ お前はここにいろ あいつらは俺たち
でどうにかしてみる」

ア「ターンアンデット！ターンアンデット！カズマこいつら倒して
もキリがないわ！」

カ「くっそ 、、 クリエイトウォーター！フリーズ！」

俺は悪魔たちの足場を凍らせ動きを封じる

が

ががああ！

悪魔は氷を直ぐに壊し俺に襲いかかる

カ「なっ！があ！」

ア「カズマ！」

カ「はあ、、、はあ、、、くっそ」

バ「なあ？そろそろ言おっかなって思ってたんだけど お前俺ちのことどう思ってる訳？」

カ「だから出てくんなくて！」

バ「まあそう言わない それとひとつ提案があるんだ」

カ「提案？」

バ「俺つちと契約しねえか？」

カ「契約、、、だと、、、」

バ「そう、、、悪魔に魂を売るんだよ
ぶはははは！」

カ「、、、」

ア「きやあ！」

カ「！アクア！」

ア「くう、、、！」

化け物がアクアにジリジリ近づく

ダ「アクアに手を出すな！」

倒れるアクアの盾になるダクネス

カ「アクア！ダクネス！ぐっ、、、」

バ「俺つちと契約しろ！そしたらあの2人もここにいるやつらも全員守ってやる」

カ「本当か、、、」

バ「ああ！あそこに転がってるバイスタンプを体に押しして俺つちを呼び起こすんだ そしたら俺つちがぶっ飛ばしてやるよ！」

カ「、、、」

バ「相棒 今ここでやらないかや一生後悔することになるぜ！」

カ「、、、くっ！」

俺は走り出しアクアが持っていたバイスタンプを拾う

カ「はあ！、、、はあ！、、、」

それで、、、あいつらを守れるなら、、、

レックス！

カ「はあああああああああ！」

俺は体にバイスタンプを押しした

その直後体に激痛が走り何かが出るような感覚に襲われる
カ「があ！はあ！、、、」

そして俺の体から

バ「んんんん、、ばあーーーーん！」

あいつが

バイスが実態を持ち現れた

この冒険者 ヤバいんじや！

この冒険者 ヤバいんじや！

前回 カズマ達はあのベルト

リバースドライバーの製作者 ジョージ狩崎に会い 協力してくれと頼まれる

がカズマはそれを断りベルトも返却した

その時 アクセルの街に突如悪魔が襲撃

窮地の末にカズマが出した答えは

悪魔と契約することだった

バ「いやっふー！ー！やっと出れたぜ！ふっふー！じゅーだー」

カ「これが、、、契約、、、」

ぎやああ！

カ「！おい後ろ」

バ「む？ ふん！」

ぎやああ

後ろから襲ってきたあの化け物をバースは避けパンチをくらわし
アクセルの壁に飛ばす

バ「いやっほーい！、、、さてと」

カ「はあ、、、はあ、、、！おい！そつちに悪魔はいねえぞ！」

ア「へ？なに なになになになに!?」

バ「ぶはははは！ 美味そうだな、、、」

カ「！まさかあいつ」

ジ「おい！君！」

カ「!!狩崎さん なんでここに」

ジ「そんなことはいい 君 これを使え」

狩崎はカズマにあるものを投げ渡す

カ「！それって、、、ドライバー、、、」

ジ「それを使ってあの悪魔をコントロールしろ！そうすればみんなを守る」

バ「ぶはははは！、、、いっただっきまーす！」

カ「！、、、ふっ！」

俺はベルトを腰に装着する

バ「！え！なにこれちよつと！戻される わーーーーー!?」

バイスは霊体のようになり俺の体に戻ってきた

カ「くっ、、、はあ、、、湧いてきたよ、、、」

俺はバイスタンプを握り前につきだす

カ「やってやるよ、」

レックス！

カ（おい騙したな！）

バ（俺つち別に嘘はついてないよ）

カ（アクアを食べようとしたろうが！）

バ（でも悪魔はぶっ飛ばしたよ？）

カ「はああ、」

俺はバイスタンプの印鑑部分に息をふきかけ

カ「ふっ！」

ベルトに押印する

C o m e o n !
レ レ レ レックス！
バ「いやっふー！」

C o m e o n ! レ レ レ レ ックス!

バイスの霊体が透明なバイスタンプの容器を持ち飛び回る

カ「変身！」

B u d d y u p !

バ「よいつしよー！」

バイスタンプをベルトに装填そして
傾ける

オーイング！ショーイング！

ローリング！ゴーイング！

仮面ライダー！ リバイ！ バイス！

リバイス！

バ「はあいヨット！」

カ「ゝゝゝ」

ダ「なんだよアレ、、、」

リ「カズマの姿が、、、変わっちゃった」

ジ「、、、ぐううれえええいつつ！」

バ「うわああ！ すっげーやっぱり！

あ カズマちゃんさつきのは冗談だから」

カ「ぐう！」

俺はバイスの胸ぐらを掴む

カ「、、、お前はあとで殴る！まずはあいつからだ！」

リ「なんなのよ、、、あの姿、、、」

ジ「仮面ライダーバイスさ、、、

悪魔を持って悪魔を制す者さ」

リ「、、、誰あなた」

カ「いくぞ はああ！」

俺はあの化け物めがけ垂直に飛び

拳を振るう

がぎあ！

着地した瞬間 岩を浮かせそれを蹴り周りの白い悪魔達を吹き飛ばす

カ「ふっ！はあ！」

バ「うわあお！やるじゃん！俺っちもいくぜ！」

バイスも悪魔目掛け突っ走る

バ「おらおらおらー！ ふっ！とりや！」

次々と悪魔達を吹き飛ばしていくバイス

カ「…、あいつ強えんだな…、やっぱ」

がぎあ！

カ「！ふっ はあ！」

俺は攻撃を避けながら 蹴りを数発入れる

カ「行くぜー」

ジ「君！」

カ「おっと …、なんです！」

ジ「ちよつとこれ使ってみて」

と狩崎がカズマの方に何かを投げる

カ「おつとつと…、ん？新しいスタンプ？」

ジ「手にポンってポンって」

カ「え？…、こう？」

ポンつと音が鳴るとそのスタンプから
まるで斧のような武器が浮き出る

カ「うおっ！すげえ！」

バ「わーお！すっげー！ハンコ押して敵倒してくから オーインバ

スターってのはどう！」

カ「はあ？勝手につけんな！」

バ「いいじゃん　ね？読者さん？」
がああ！」

カ「！ふっはあ！」

襲ってくる悪魔を避けながらその斧で敵を切り付ける

バ「いいなー　ふん！俺っちも使いたい！　つとおりや！」

バイスは悪魔の下半身を持ちそのまま飛びたたき落とす

バ「悪魔式スクリユードライバー、、、決まったぜ」

カ「はあ！　ほお！へや！」

俺はバイスの背中を借り高いところから振り下ろし敵を切る

バ「わーお！何それカッター！俺っちもー！」

バイスは白い悪魔たちの方へ向かっていく

カ「よし、、、　ん？この斧にも押印する所が、、、　もしかして」

俺はオーインバスターの下にあるスタンプをそこに押す

スタンプバイ！

スタンプを下に指し斧を構える

カ「伏せろ！」

バ「え？何なんか言ってるってうお！」

バイスはギリギリしやがみたっていた悪魔に斬撃が当たった

バ「つと 危ねえじゃねーか！

でも俺たちいいコンビになりそうじゃね？」

カ「はあ？どこが」

オーインバスターのグリップをスライドし押印部分を白くする

ぎやああ！

カ バ「ふっ！ はあ！」

襲いかかる化け物に同時に攻撃させ怯ませると

胸の恐竜マークが薄ら光り始める

カ「ん？…、もしかして」

俺はバイススタンプをベルトから外し

胸に押す すると

カ「！うお！なんだこれ！」

俺の足はまるで恐竜のように太く爬虫類のような足になった
がぎあ！

マンモスの化け物が俺目掛け風を飛ばすがそれを避ける

カ「はああ！ふん！」

着地と同時に敵を浮かし

カ「はあ！」

その隙をみてキックをくらわす
と同時に足は元に戻った

バ「ねえねえねえ！読者さん！どっちがいいと思う？（カ「お前誰に話してんだ？」）やっぱ強い奴から倒した方が小説的にも面白いよね、ってちよつと！カズマ！まだ話の続きでしようが」

カ「一気にいくぜ！」

俺は化け物目掛け走り出しながら
ベルトのバイスタンプを2度傾ける

バ「つてなにになになに！足になにかきたー！」

カ「ふっ！はああ！」

俺は蹴りを使い化け物を地面から浮かす
それを追うように俺たちも飛ぶ

カ「ふっ！」

バ「はあ！」

俺とバイスの足にバイスタンプの容器のようなものが着く

カ バ「はあああああああ！」

レックス！スタンプングファイニッシュ！

2人がキックの構えで化け物目掛け飛んでゆく その時足裏の5
0の文字が光る

カ バ 「はあ！」

ライダーキックで化け物も地面に叩きつけると その化け物は爆
発していった

バ「決まったぜー！」

カ「ふう、、、」

パチパチパチパチ

カ「ん？」

ジ「ブラボー！ありがとう 仮面ライダーリバイス！」

バ「へへん それほどでもあるよね？」

カ「、、、」

俺はベルトのバイスタンプを傾けベルトからスタンプを抜く

バ「え？あれちよつと！いつの間に戻って あー！戻されるー」
と同時にバイスが俺の体に吸い込まれていった

カ「俺が、、、仮面ライダー」

ジ「そうさ 悪魔を持って悪魔を制す

仮面ライダーリバイスさ」

ア「カズマー！」

カ「！アクア無事か」

アクア達が俺たちの方へ近づく

ア「ええ、、、それにしても勝ったのね」

カ「ああ 多分な」

ダ「それにしてもあの姿はあんな力を秘めていたとは、、、」
め「本当ですよ、、、」

ジ「カズマ、、、君はカズマというのかい」

カ「え？あ はい サトウ カズマです」

ジ「なるほど君も、、、カズマ君

君に折り入って頼みがある」

カ「なんですか、、、」

ジ「前にもいったバイスタンプの回収を手伝ってくれないか」
カ「ええ、、、」

ジ「そもそもそれを使うってことは私の交渉に乗ったと言っても過言ではないか？」

カ「いや それは状況が状況で、、、」

ジ「これはゼロワンの1話と同じなんだよ 使用したらそれはもう君のなのさ！」

カ「なんなんですか！ゼロワンって！」

ア「もうカズマ いい加減貰っちゃいなさいよーあつて困るものでもないでしょ、、、 悪魔はいるけども、、、」

バ「ん？なに？」

め「そうですねよ！そんな紅魔族に刺さるものを使わないなんて勿体ないです！」

カ「ええ、、、」

ジ「、、、 どうだい？」

カ「、、、 ああ！分かりましたよ！

これからもこのドライバーは使わせてもらいます！」

ジ「では！バイスタンプ集めも手伝ってくれるのか」

カ「、、、 まあそういう話でしたから、、、」

ジ「THANK YOU！カズマ！」

狩崎さんは俺の手を握り握手をする

カ「お、おう、、、」

こうして俺は数日にして悪魔を制する力と仮面ライダーの力を手に入れたのだった。

予告

合作長編

この悪魔ライダーに契約を！

×

この素晴らしい世界に祝福を

リトライ wonderful World

デ이니ラス退治から1年経ったある日

両方の世界で

ある日ウイズの店に訪れたカズマ達

そこで見つけた魔道具 この世に存在する 平行世界へ飛ばされて
てしまうという魔道具をアクアが誤って起動してしまった

それにより

リトすばのカズマとアクアが

このすばりバイス世界に

このすばりバイスのカズマとアクアが

リトすば世界に飛ばされた!?

カ「どうなってるんだ?!」

ア「また 時が戻ったの!？」

め「この頃のカズマは懐かしいですね」

カ「めぐみんが年上!？」

そして各々その世界でひと時の時間を過ごす

カ「このポンコツ感、、、懐かしいな、、、」

カ「めぐみんとダクネスが強すぎる、、、」

しかし

カ「なんだ あいつ、、、」

?「この世の境界に封印されしガラム様をギルス様を、、、復活させる時が来たのです!」

復活する歴史に葬られた悪魔達

リミル「かつて ある平行世界同士をぶつけさせ 二つの世界を崩壊させたと言われる 悪魔達なのです、、、」

バ「奴らは悪魔の中でも禁句になるほどの恐ろしい奴 あのディニラス程の力、、、いや それ以上に匹敵するかもしれない」

2つ両方の世界で ある悪魔達が世界崩壊を企んでいた

その名は ガラム ギルス

奴らは平行世界同士をぶつけ合い この世の全てを壊すほどの

ビックバンを起こそうとたくらむ悪魔

ダ「この世界も平行世界も破壊はさせない！雷鳴剣 剣技！」

め「そちらのカズマにも伝えなくては、、、」

オーバー「ここまでなのか、、、」

だが

カ「この世界を2度も破壊されてたまるかよ、、、」

リバイ「たとえ別世界だとしても こいつらは存在する、、、」

『俺達はここの世界を』

カ「絶対に守る！変身！」

カ「絶対に守る！覚醒！」

それを止めるため 2つの世界の冒険者達が立ち上がる
決して交わることがない

2つの物語が今混じり合う！

合作長編

この素晴らしい世界に祝福を！

リトライ世界と悪魔世界

この悪魔にクエストを

この悪魔とクエストを

前回俺はアクセルの街に突如襲ってきた悪魔達を倒すため 仮面ライダーバイになり悪魔バースと協力し悪魔を撃退したのだった

カ「ふあつあー、、ねつむ」

あれから1夜あけ次の日俺たちは屋敷に戻った

め「あ カズマおはようです」

ダ「珍しいな お前が朝に起きてくるなんて」

カ「珍しくて悪かったな、、 っても

その原因はこいつにもあるんだけどよ」

バ「なーに カズマ？ 俺っちが何かした？」

カ「お前はとにかくうるさいんだよ！おかげで眠れやしねー」

ア「、、おはよー」

カ「アクア！お前が起きてるなんて珍しいな！」

ア「カズマには言われたくないわ、、それもこれもこいつのせいよ

！この神聖な屋敷に悪魔がいるって考えたらもう眠れないわよ！」

め「2人ともあの悪魔のせいだ寝不足のようですね」

と俺達が話していると

屋敷の入口からノックが聞こえてきた

カ「ん？誰だ？」

め「もしかしたらウイズカルナさんですかね 私が出てきます」

カ「ああ じゃあ俺もいくよ」

と俺とめぐみんは屋敷の前へと歩いていく

カ「はあーい 今開けます、、つてあなたは！」

ジ「やあ！カズマくん昨日ぶりだね」

カ「狩崎さん！でもなんでここになってななんで俺たちの住んでるとこ！」

ジ「街のみんなに聞いてきたんだ」

め「狩崎さん、、でしたか？どうしたのです？こんな朝に」

ジ「いやー 実は君たちに支給しておきたいものがあったね」

め「支給しておきたいもの？」

カ「ああ ここで立ち話もあれですし

どうぞ中へ」

俺は狩崎さんを屋敷の中へと案内した

ア「どなたかと思つてたけどあなただったのね」

カ「おいアクア 失礼だぞ」

ジ「いやいいんだ 朝早く来てしまった自分にも原因はある …、
さて カズマくんこの度はリバイスドライバーの件誠に感謝する」

カ「い いやー…」

ジ「そしてバイスタンプの回収のことも本当にご協力感謝する さ
て本題なんだが この先バイスタンプを回収するとなると この間
のようなあの悪魔達と戦うことになる」

ア「ええ…、あんなおつかないやつと戦い続けるの…」

ジ「そこでこちらから 支給して私が開発した武器を受け取つても
らいたいんだ」

と狩崎さんはジュラルミンケースのようなものをテーブルに置き
ケースを開ける

すると

スマホのようなものが4つ入っていた

カ「これって！スマホ！」

ジ「これは私が開発した ガンデフォン50 これを使えば カメ
ラで写真を撮ることももちろん動画や 携帯電話としても使える」

カ「…、まんまスマホじゃねーか」

め「凄いですね…、これほどの高性能な魔道具を作れるなんて…、」

ジ「しかしそれだけでは終わらない

カズマくん そのガンデフォンをいじってみてくれ」

カ「え？ああ、、はい」

と俺は言われるがままにこのガンデフォンをいじってみると、、

カ「ん？なんか押せる、、！ うお！」

ガンデフォンにあるボタンのようなものを押しじると 横から銃のグリップのようなものが出てきた

カ「これって、、銃、、」

ジ「そう！ガンデフォン50はその名の通り銃の携帯電話！ それを使えばあのデッドマンの悪魔にも対抗出来るはずさ」

カ「へえー、、ん？待ってください デッドマンって？」

ジ「ああ そういえば説明し忘れてしたね昨日戦った悪魔やあの白い悪魔あれらを総じてデッドマンと読んでいる 私の元いた世界で人の悪魔を解放させ その悪魔を使い 世界を恐怖させる奴ら

デッドマンズという奴らがいた」

カ「そんなのが、、」

め「そんな恐ろしいのが、、」

ダ「なあ カズマの悪魔はそのデッドマンって奴なのか？」

ジ「さあね、、私もこのような悪魔を見たのは初めてさ、、」

バ「ん？なに？真面目な話終わった？」

カ「お前聞いてなかったのかよ、、」

バ「ん？うお！なにこれ！」

とバイスはガンデフォンを見るとそれに興味をもつ

バ「あ そうだ！ そーれ！」

するとなんと

バイスはガンデフォンの中に入ってしまった

カ「え！ちよ！バイス！」

バ「ほほーい！カズマー」

画面内からこちらに手を振るバイス

カ「、、こいつ なんでもありだな」

ジ「はっははは！やはり君は面白いよ つとそうだカズマくん
君にこれを」

と狩崎さんは俺に何かを渡す

カ「ん？ ！これって、、バイスタンプ！」

そのバイスタンプは緑に紫の配色で

底には鳥のようなものが掘り起こされている

ジ「協力してくれるお礼にね

そのイーグルバイスタンプを君に」

カ「新しい、、バイスタンプ、、」

ジ「それじゃあ 私はこの辺で 帰って色々研究しなくてはね」

カ「ああ 狩崎さん こんなに色々貰っちゃってすいません、、」

ジ「いいんだよ またなにかできたら

君たちに渡すよ きつと力になるはずだから」

と言って狩崎さんは屋敷を後にした

カ「何から何まで感謝しかないな、、」

め「本当にすごい魔道具です、、しかもそれが4つも、、」

カ「だな、、よしこのガンデフォン各自みんなに配っておくぞ」

ダ「いいのか？」

カ「ああ護身用しな、、でもお前の場合銃でも当たらなそうだし
な」

ダ「うう、、」

ア「これを使えば、、あのカズマの悪魔にも効くのね」

カ「先に行っておくが 一応こいつには攻撃はしないでくれ」

ア「ちい」

カ「、、さて 今日クエストにでも行くか」

め「！珍しいですね いつもは私たちが来ましようと言うと大抵変な言い訳をして行きたがらないカズマが」

カ「う うるさい！ このガンデフォンの使い方とか実践を踏まえ
て知りたいからさ あと このイーグルバイスタンプの力もさ」

ア「なるほどねー、、なら！」

クエスト！

ジャイアントトードを討伐せよ！

俺たちは今アクセル付近の草原でカエル討伐しに来た

カ「またカエルか、、」

め「またカエルですか、、」

ダ「カエルか、、今日こそ捕食のヌルヌルを体験したい、、」
カ（こいつは相変わらずだな、、）

ア「この銃が本当にすごいものならあのカエルなんてイチコロよ！
待ってなさいカエル！」

とアクアはカエルの近くの方までやってきていた

カ「あ！ちよ アクア！」

ア「くらいなさい！」

ア「クパ 、、」

案の定食われてしまった

カ「アクアー！」

俺はアクアを食っているジャイアントトードの所へ向かい ガン
デフォンを構える

カ「喰らえ！」

俺はカエル目掛けガンデフォンを放つと

ガンデフォンの先端から小さな光線が放たれ カエルの腹を貫通する

と同時にカエルは地面にドタンと音を立て 崩れ倒れる

カ「…、うっそだろ…、」

め「カエルをワンパンですよ！」

ダ「すごい…、だが貫通したとなると…、アクアは大丈夫なのか…、」

カ「あっ！やっべ！」

俺はカエルの口を開きアクアの安否を確認する

ア「うう…、かずまああ…、」

よかった ひとまずあの光線には当たってなかったようだ
カ「おい？大丈夫か？」

ア「うう…、なんでこうなるのよ…、」

カ「はあ…、」

バ「ぶっははは！なっさけないのー！」

ア「うるさいわよ！あなたは何もしてないじゃない！」

バ「へっ 俺っちにやらせたらあんなカエル イチコロだもんねー」

カ「2人とも喧嘩すんなつての！、、、全く」

同時刻 アクセルのギルドside

あるアーチャー

「、、、」

ある魔法使い

「、、、」

あるアーチャー

「、、、」

ある魔法使い

「今日のクエストは上手くやれなくてごめん、、、 また今度挑んで」

あるアーチャー

「誰のせいで上手くいかなかったんだ！あ！」

ある魔法使い

ビクッ

あるアーチャー

「だいたいお前の魔法は弱すぎるんだよ！ 中級魔法を使っても威力がない オマケに消費魔力量が少なくて数発しか打てない？」

ある魔法使い

「それは、」

あるアーチャー

「まだあの爆裂魔法を使う子の方が優秀だよ！、お前とはこれっきりな」

ある魔法使い

「え、ちよ まってよ！ 他のメンバーはどうするの！」

あるアーチャー

「お前ぐらゐの魔法使いなんて他にも沢山いるだろ、お前の代わりぐらゐいくらでもいる、じゃ」

と言ってアーチャーはギルドから出ていった

ある魔法使い

「、そんな、」

魔法使いはギルドを出てアーチャーやほかの仲間も探すが見つからなかった

ある魔法使い

「、くっそ、生活費やらクエストのエリスもほとんどあいつらが管理してたからもう手持ちが、これじゃ宿にも、」

ある魔法使い

「なんでこんなことに、なんで、」

？

「それはあの男のせいでしょ？」

ある魔法使い

「！だ 誰?!」

？

「あの男が君の話なんか聞かないで
勝手に話を進めるからでしょう」

ある魔法使い

「そ、それは、」

？「、、、心に渦巻いているその感情、、、悪魔に、、、委ねてはいいかが
でしょう、、、」

謎の男は青くカマキリのようなバイスタンプを渡す

ある魔法使い

「、、、」

人間関係！仲良くせい！

カズマ side

カ「ふう、、、ガンデフォンのおかげで今回は無事に済みそうだな」

ア「ちよつと！私が無事じゃないんですけど！」

カ「お前のは完全に自己責任だろうが！全く、、、」

カズマ達はカエル討伐を終えギルドに報告しに行こうとすると前からある冒険者パーティとすれ違おうと

「おい」

と、後ろの方から声が聞こえた

あるアーチャー

「あ？んだよお前かよ お前はパーティから抜けろって言ったよな」
後ろを見ると魔法使い風の男があパーティに話しかけていた

カ「、、、なんだ？喧嘩か？」

め「、、、みたいですね、、、何かあったのでしょうか？」

すると呼び止めていた男が懐から

バイスタンプを取りだした

カ「！あれって！」

カマキリ！

ある魔法使い

「、、、ああああああ！」

その男は自分の体にスタンプを押し付ける

ある魔法使い

「ギド、、、俺の話、、、聞けー!!」

その瞬間

その魔法使いから悪魔が開放される

ぎやああ！

ギド

「あああ！な なんなんだよそれ!？」

魔法使い

「あっはは！最っ高だ！これ、、、」

カ「まづい!？」

リバイスドライバー！

カ「行くぞ！バイス！」

レックス！

バ（お？敵か！ワクワクするな！）

カ（いいから早く助けるぞ）

カ「はああ、、」

C o m e o n レ レ レ レックス

バ「いやっふー！」

カ「変身！」

B u d d y u p !

オーイング！ショーニング！

ローイング！ゴーイング！

仮面ライダー！リバイ！バイス！

リバイス！

バ「いやっふー！久しぶりに暴れるよー！」

カ「はあああ！」

俺はカマキリのデットマンに向かって走ると

バ「レディ、、、 GO!」

バイスはクラウチングスタートで走りだし
俺より早く敵に殴りに行く

バ「ふおー あたたたたたたたたた!」

高速のパンチで敵を吹き飛ばす

バ「悪魔、、、百裂恐竜拳

いえーい 俺っち最高!」

と浮かれるバイスの後ろにデットマンが襲いかかる

カ「あいつ、、、!あぶねえ!」

カマキリデットマンがバイスに殴り掛かろうとするが ギリギリ
で避けた

カ「おい!気をつけろ!バカ悪魔」

バ「あらカズマちゃん素敵、、、 最っ高だわ!、、、俺っちの愛 受け
止めてー!」

するとバイスは俺の足を持ちグルグルを回す

カ「ちよ!おい!回すな!目が回る!」

バ「ぐるぐるぐる、、、どっかーん!」

バイスは俺をデットマン目掛け投げ飛ばす

カ「ちよ!うわああああ! があは!」

ぎぎやあ!?

カ「うう、、、目が回る、、、」

ぎ、、、ぎゃあ！

カ「があ、、、くつ　ぐはあー！」

バ「ぐっふふ、、、さてと皆さんなんで悪魔がここまで従順だったの
でしょうか？正解は　猫かぶってたからでーす！　、、、でも　今まで
被っていた猫を、、、脱ぎまーす！、、、ぶっはははー！」

ギド

「！なっなんだよー！こっち来んなー！」

バ「ぶっはははー！おれっちの獲物だ、、、」

カ「！あいつ　！　こうなったら」

俺はベルトサイドにあるもうひとつのバイスタンプを取り出し押
す

イーグル！

バ「へ？ちよ　またー！」

するとバイスは俺の所へ吸い込まれるように俺の体内に入る

カ「はああ、、、」

C o m e o n ! イ イ イ イーグル！

C o m e o n ! イ イ イ イーグル!

カ「はあ!」

B u d d y u p !

荒ぶる 高ぶる 空掛けめぐる イーグル! イーグル!
お前の羽を数えろ!

カ「、、これがイーグルの力、、」

バ「俺つちかつこよすぎて、、飛んでつちやいそう」

ぎいやが!

カ「!ふっ!」

バ「うわつと! さあーていくぜー!」

カ「お前ー! また騙しやがったな!」

バ「いったい?! うわお!」

カ「通りで大人しいと思ったらこのやろ!」

バ「落ち着けてー」

とバイスと揉めてるうちにベルトのスタンプが一度傾く

バ「いででで だつて? 俺つち悪魔だよ? 真面目につてむずくない
?」

カ「言い訳すんな!」

ア「ちよつとなにやってんのよ! あいつ逃げちやうわよ!」

バ「ちよちよカズマ落ち着いてつてー」

カ「ばか! お前掴むなって何すんだよ!
すると

リミックス！

とスタンプからなる

バ「はいはい落ち着いてねー」

カ「おま！股の下入んなっての！おいこら！」

バ「だから落ち着いてってー」

そしてバイスの腕がベルトのスタンプにあたりもう一度傾く

Buddy up!

すると胸の鳥のマークが光り出す

カ「え？ん？なんだ？」

バ「え？なにこれ？」

すると

カ「え？ちよ 体が勝手に!?!」

バ「なにになになに!?!」

そして2人が合体し

大きな鳥の姿になった

必殺 ミラクル ぐるぐる イーグル！

め「ええー!?!」

ダ「鳥になってしまった、」

ア「もはやなんでもありね、」

ぎい、、、ぎや？

カ「ええー！　！そういう事か」

カ「ふっ！」

バ「え？ちよ置いてかないでよー」

カ「ばか！なんで離すんだよ！こっち来い！」

バ「はいはい　分かりましたよ　そい！」

ぎい、、、ぎやああ！

カ「ほっ　はあ！」

バ「いやっふー　すげーぜ！飛んでるー」

カ「真面目にやれ！、、、そろそろ決めるぞ！」

ぎやあ！

俺たちはカマキリのデッドマンズを足でつかみ空中に投げ飛ばす

カ「一気にいくぜ！」

イーグル　スタンプングフィンツシユ！

ぎやああああ！

アーチャー

「、、、そ　そんな、、、」

カ「ふっ、、、　つと　どうにか倒せたか」

め「カズマ！ 大丈夫ですか？」

カ「ああ なんとかな」

その時

アーチャー

「、、ギ ギド、、俺は、、」

ギド「話しかけるな もう二度と目の前に現れるな」
アーチャー

「、、」

ギド「おい 行くぞ」

バ「ふっ」

ギド「！な なんだよ！」

バ「ぶっははは 、、」

????????????

カ「！あいつまた！」

俺はベルトからスタンプを抜き変身を解除する

バ「わあ！ちよ！またー！ー！ー！」

カ「はあ、、こいつ、、隙あらば狙いやがって、、」

こいつをむやみやたらに出すのは危険だ、」

ア「!ねえ これ」

ダ「これは、、、さっきのアーチャーの男が持っていたスタンプか」
カ「だな、、、それと、、、おい!そのアーチャー!」

アーチャー

「!は はい、、、」

カ「このスタンプ どこで手にしたんだ」

アーチャー「そ 、、それは、、、」

め「早く言わないと爆裂魔法をかましますよ」

アーチャー「ま!待って!言う言うから!」

カ「脅しの内容がえげつないぞ、、」

め「こうでもしないと簡単に口を割ってくれなさそうだったので」

カ「そう、、んで どこで手に入れたんだ」

アーチャー「あ ある男に貰ったんだ、、 悪魔に委ねてみてはいかがでしょうって 言われてそのスタンプを」

カ「ある男?その男の名前は」

アーチャー「知らない一切言ってなかった…」

カ「なるほどな…」

その後そのアーチャーの男に宿代を少しだしてやって解散し俺たちはカマキリのバイスタンプを狩崎さんに渡しに行った

ジ「なるほど、、バイスタンプを渡した謎の男がいたか、、」

カ「はい あの人の話だと」

ジ「、、、やはりこの世界にもデッドマンズがいるのか、、、」

ア「デッドマンズってこの前話してたヤツ？」

ジ「ああ おそらく私が元々持っていた10個の内数個はあちらに行っているのかもしれないね、、、」

め「あの、、、そもそもなんですけど、、、なぜ 狩崎さんが持っていたバイスタンプを敵であるデッドマンズが持っていることになっているんですか？」

ジ「ああ、、、それは 数ヶ月前 私はこことは別の場所で研究をしていたんだ、、、だが ある日私が留守にしている間に何者かに研究を襲撃されていたんだ そしてそれと共にバイスタンプが数個無くなっていたんだ」

カ「そんなことが」

ジ「それもあつてこうやって地下に作ったってわけさ、、、さてそのカマキリのバイスタンプは1度こちらで預かっておくよ それを君が使えるようにしてあげるから」

カ「本当ですか！」

ジ「ああ」

こうして俺たちはラボを後にし屋敷に戻った

カ「ふう、、、にしても、、、なんであいつそこまでしてあのギドってやつを、、、」

バ「なにになに？カズマちゃん 悩み中？ それなら取っておきのなぞなぞがあるんだぜ お父さんが嫌いな食べ物ってなーんだ、、、ヒントは パパがイヤなもの あっ！答え言っちゃった！」

カ「こいつはこいつで呑気だし、、、」
こんなでも外に出したら人を襲う悪魔なんだよな、、、あんなのがまた暴れられたら

バ「あー 暇だなー！早くデッドマンズ現れないかなー！俺っちさっきのギドってやつに教えてやったんだぜー」

カ「は？」

バ（ぶははは 悪魔を解放するって気持ちいいんだぜえ、）

カ「おい！今の話本当か！」

バ「悪魔嘘つかないもーん」

カ「、、、おい」

アクセルside

ギド「ふう、、、」

アーチャー「ギド、、、」

ギド「?、、、」

アーチャー「この間のことは、、、本当に済まないと思ってる、、、あんなことしといて何様だって話だけど、、、おれ ギドの仲間でいたいんだ」

ギド「、、、はあ なあ？ 俺がここに何しに来たと思ってる？」

そしてギドは胸ポケットから

バイスタンプを取り出す

ギド「はっはは、、、」

メガロドン！

屋敷 s i d e

バ「のわあ！つと！」

リバイ「お前！なんてことをしたんだ！」

バ「やばばだつて！」

め「！ちよつと！屋敷で何を！」

カ「お前も知ってるだろ！悪魔がどんな被害を出すか！」

バ「落ち着けよー」

カ「ぐっ、、、がああああ！」

ダ「何をやってるんだ！カズマ！」

カ「！」

ダ「また別のデッドマンズが現れてる！」

カ「、、、」

俺は変身を解除し ベルトをダクネスに渡す

ダ「、、、カズマ、、、何を、、、」

カ「、、、やっぱり こいつを使うのは俺じゃない」

俺はベルトを渡し 街の方へ向かう

バ「あ、、、ああ、、、」

アクセル s i d e

アーチャー「うわああ！」

ギド「あつははは！ 最っ高だな、、、

本当に悪魔を解放するのってな！」

ぎやあ！

アーチャー「うわあ！」

カ「クリエイイトウオーター！」

ぎいやあ！

アーチャー「うう、、ん？あれ」

カ「おいあんた！今すぐ逃げろ！」

アーチャー「、、で でも」

カ「でもじゃねえ！早く」

アーチャー「！、、っ」

アーチャーはギルド方面に逃げていった

カ「、、やってやるよ、、はあああ！」

ぎしやあ！

カ「がああ！ っくう」

ア「ちよつと！カズマ！なんで変身して戦わないのよ！」

カ「うるさい！、、これは 俺の責任なんだよ、、はあああ！」
ぎぎあ！

カ「がああ！」

バ「あ ああ、、 おいカズマ 俺つちを出してくれよ そうしたらあんな悪魔ぶっ飛ばしてやるのによー！」

カ「いや、、出さない これは俺がお前を出したせいでこうなってるんだ」

カ「俺は たとえクスだのゲスだの言われても、俺のせいどころなつたってんなら俺一人で片をつける」

バ「何言ってるんだよ！お前が生身で勝てるわけねえだろ！」

カ「、、じゃあよ 約束しろ もし出たいなら 二度と人を襲うことをしないってな！」

バ「！、、聞かなければ、？」

カ「死ぬまでこうやって戦ってやるよ お前俺が死んだらお前も巻き添いなんだろう？」

バ「！、、ぐぬぬぬぬ、、あー！わかったよ！ おれっちの負けだ！ もう二度と人は襲わない！」

カ「、、どうせ口だけの嘘なんだろう？」

バ「悪魔嘘つかない！」

カ「だったら 今ここで誓え！」

バ「ぐう、、わかったよ 俺っちは、、俺っちは カズマの言うことを、、守ります！」

カ「はあ、、よし 契約成立だ、、ダクネス！」

ダ「カズマ！」

ダクネスは俺めがけリバイスドライバーを投げる

カ「、、湧いてきたぜ」

レックス！

カ「はああ、、」

カ（本当に襲わないんだな）

バ（しつこいぞ！だから悪魔嘘つかない！）

C o m e o n ! レ レ レ ックス!
C o m e o n ! レ レ レ ックス!

カ「変身！」

B u d d y u p !

オーイング！ショーニング！

ローリング！ゴーイング！

仮面ライダー！リバイ バイス

リバイス！

ぎじや！

カバ「はあ！」

カ「一気にいくぜ！」

ギギヤ！

カ「はあ！ ふっ」

バ「つちい はあ！」

ギギヤ!?

め「いいですよ！カズマ！押してます！」

オーインバスター50！

カ「ふっ へえあ！」

ギギヤ！

カ「のわ！」

デットマンの攻撃で オーインバスターが空中に放り投げられる

カ「!ふっ」

攻撃を避け 落ちてくるオーインバスターを持つと

バキュン!

ギギヤ!?

カ「え!なんか打った! ってかこれ斧にも銃にもなるのか! だつたら」

俺はガンデフオンを取り出し銃にする

カ「二丁で行くぜ!」

俺は打ちながらデットマンに近づき攻撃をくらわす

ぎじや!?

バ「ふん! あ!カズマだけずるい!俺っちもやりたーい」

カ「はあ? しょうがねえな ほらよ」

バ「サンキュー へっへへ 行くぜ!」

俺とバイスが銃で攻撃し相手を追い詰める

ギド「っはは 俺の悪魔はこんなもんじゃねえぞ、」

カ「!なんだ」

ギド「ははは!」

その時

アーチャー「はあ!」

ギド「!!なんだよ! 離せ! マグルス!」

マ「早く! お願いします 相棒の悪魔を止めてください」

カ「!、あぁ! 行くぞバイス!」

俺はベルトのバイスタンプを1度かたむけスタンプのボタンを押す

リミックス!

B u d d y u p!

必殺 繰り出す M A X L E X!

バ「ぷは! 俺っちしたかよ!」

カ「一気に決めるぞ」

恐竜の姿になり デットマンを口で噛む

そしてそのまま空中に投げ 地面に叩きつけた

ギギヤ!

カ「はあああああああああ!」

レックス! スタンプングファイニッシュ

バ「はいそれでは皆さん

3

2

あつくなあつくまー！

1

バ「いえーい！ねえねえ 俺たちいいコンビだからよ ほらツ
シヨツトしようぜ」

カ「ちよやめろ！」

こうして俺たちはデットマンを倒した

あのギドとマグルスってやつは自ら自首をし警察の方に連行され
た

俺たちはギドが使っていたメガロドンバイスタンプを狩崎さんに
預け

屋敷に戻ったのだった

カ「ふう、、、今日はほんとにいちだんと疲れたな、、、」

め「お疲れ様です」

ダ「ああ まさかあのヘタレのカズマがあそこまでやるとはな」

カ「おいそこ 一言余計だぞ！」

ア「むう、、、」

バ「ん？どうしたのアクアちゃん 気分悪いの？」

ア「あつたりまえよ！私がいるのに悪魔と契約したのよ！これは女

神に喧嘩を売ってるようにしか思えないわよ！」
バ「落ち着けよー」

俺はこの異世界で生きていくのだろうか 冒険者として 仮面ラ
イダーとして

デットマンを倒していくのだろうか

まあ だとしても

あの賑やかな奴らは変わらなそうだな

この誘拐に救済を

この誘拐に救済を

? 「はあ、、、 ギフさま」

? 「おや どうなさいました? アギレラ様」

ア「、、、 私はギフ様の復活を待ち望んでるの そのためにはもつと人間達から悪魔を解放しないと、、、なのに

あの変なピンクの恐竜みたいなやつとそいつの悪魔のせいで解放した悪魔が全員倒されてる」

? 「なるほど、、、では そんなアギレラ様に喜ばしいことが 今ここに新たに悪魔を解放したいという人間が、、、」

アクセルside

カ「ふう、、、今日の買い出しはこんなもんかな」

バ「お? 今日は何作るんだ? カズマー」

カ「ああ 今日はこの野菜使ってサラダやら色んなのを作ろうと思ってるな」

め「おや カズマじゃないですか」

カ「お? めぐみん どうしたんだ お前も買い物か?」

め「はい クエストで稼いだエリスが溜まってきたので新しい魔道

具や杖を」

カ「なるほど、、」

そう俺たちパーティは今結構普通に稼げている

それもそのはず 最近のクエストは

大抵このガンデフォンで片付いてしまうからだ

ただしリバイスドライバーは使わないようにしている あれは悪魔が出た時のみ使うと決めている

話を戻すがガンデフォンのおかげで討伐数も稼げて クエストでの報酬もたんまりになり

今のところ 生活には困ってはいない

、、まあアクアのやつがギルドに借金を抱えてたりしてるから あまり変わらないんだがな

カ「さて 俺達もそろそろ」

とその時

きやアアアア！と女性の叫び声が響いた

カ「！なんだ！」

バ「うーん あっちの方っぽいぜ！」

カ「よし 行こう」

め「あ！ちよ 待ってください！」

俺たちがその声の場所に向かうと

カ「!デッドマンズ!

め「いきなりこの数、、、一体誰が」

カ「分からねえ、、、ただ この状況何とかしねーと」

バ「いつちやう?」

カ「行くぞバイス!

バ「あいよ みんなーおれっちの活躍見てねー (あつ映画館でもねー)」

カ「お前何言ってるんだ」

レックス!

C o m e o n レ レ レ レックス!

カ「変身!」

仮面ライダー リバイ バイス
リバイス!

オーインバスター50!

カ「はあ!」

バ「よし俺っちもいくぜー」

カ「めぐみん!周りの人達の避難を頼む!」

め「分かりました!」

カ「よし バイス!こいつら一気に片付けるぞ!」

バ「了解！」

イーグル！

Buddy up!

荒ぶる 高ぶる 空駆け巡る イーグル
お前の羽を数えろ

リミックス！

カ「ほっ」

バ「よっ！」

必殺 ミラクル グルグル イーグル！

イーグル！スタンピングフィニッシュ

カ「はあああああ！」

リミックスによる必殺技でギフジュニアを一掃する

カ「よっと」

バ「ひゃっほーい！」

カ「、、、にしても あの白い悪魔だけなのか？、、、いつもなら、、、」

め「きやああ！」

カ「！この声 まさか めぐみん！」

俺はめぐみんの声がした方向へ走っていった

め「！カズマ！」

カ「めぐみん！」

??「おおっと これ以上近づくなよ
それ以上近づけば こいつを殺す！」

め「カズマ、、、」

やつはめぐみんを人質に取っていた

カ「あの白い奴らは囷ってわけか、、、 何が目的なんだ！」

？「決まってるんだろ、、、 金だよ金だ！」

カ「身代金ってことか、、、」

？「お前 最近有名になってる仮面ライダーってやつなんだろ」

カ「、、、 ああ」

バ「あら？俺つちたち有名人なのー いやーん俺つち変装しなきゃ
！」

？「そんな力持ってたらくエストも楽だよな らくして大金稼いで
るよな！」

だからお前の仲間を誘拐して身代金を貰う！」

カ「そう易々と払えるか！」

？「払えないならこいつを殺す！」

カ「ちい、、、」

？「さあ！早くしろ！さもないとこいつを殺す！」ガン！

突然犯人は力が抜けたかのように倒れ込んでしまった
め「え？」

カ「ふう、、、 ナイスだ

ア「クア！」

ア「全く！私の仲間に手を出すなんて100万年早いのよ！」

め「ア アクア、、、いつからそこに」

カ「ああ それはな ここに駆けつける前に」

回想

カ「あつちか！」

ア「あら？カズマ？なんで変身してんのよ？、、、げ！あの悪魔まで
いるし」

カ「あ？ アクア いやさつきまでデッドマンズがいたから」

ア「ふうーん でなんでそんな急いでんのよ」

カ「お前聞こえてなかったのかよ めぐみんの叫び」

ア「ああ、、、さつきまでギルドにいたから」

カ「、、、お前またつけ作つたらろ」

ア「何よ！どうせクエストは楽勝なんだからいいでしょ！」

カ「それとこれとは話は別だ！つて

そんなことしてる場合じゃねえ！早くめぐみんの所に」

ア「その前に千里眼でめぐみんの方を確認してみたら？」

カ「え？」

ア「だってその方が相手の裏を取れるじゃない」

カ「、、、確かにお前にしては賢いな、、、」

回想終わり

カ「んでアクアに潜伏スキルを使わせて 相手の裏に回ってもらつたつて訳だ」

め「な なるほど、、、」

？「ぐう、、、」

ア「あ！起きたわよ」

？「くっそ、、、不意打ちかよ、、、」

カ「つたく お前生活に困ってんならちゃんとした方法で稼げ 俺だってお金に困ってもそこまではしなかつたぞ」

？「黙れ！、、、俺にはこれしかないんだよ！」

コング！

? 「がああああああ!」

男が自分の体にバイスタンプを押印する

カ「!あの野郎デッドマンを、」

バ「お?あの悪魔すげえ腕してるぜ

パワー凄っそー!」

ごがああ!

カ「!ふっ あつぶね! アクア めぐみんを連れて遠くに行つと
いってくれ!」

ア「え ええ わかったわ」

カ「よし」

バ「ねえねえ カズマ この前狩ちゃんから貰ったあれ使ってみよ
うぜ」

カ「狩ちゃん?、、まさか 狩崎さんのことか ああ わかった」

マンモス!

C o m e o n マ マ マンモス!

B u d d y u p!

巨大な牙持つ陸のボス! マーンモス!

はなっからクライマックスだぜえ

バ「俺!バイスです」

カ「いくぜ!」

がああ!

カ「ふっはあ!」

バ「はあ！」

かぎやあ！

カ「おつと！ ふっ はあ！」

背中についていたブーメランを飛ばしデットマンに攻撃を食らわす

ぎがあ!?

バ「へへ！次は俺っちの番だぜ！」

ぎがあ！

バ「お！ ふん！ そんなパンチこの盾の前には意味ないんだぜ！
はあ！」

バイスはそのパンチを払い 反撃を食らわす

ががあ！、、、

カ「よし 、、 一気にいくぜ！」
リミックス！

B u d d y u p !

必殺 ドスドス 倒す マンモス！

バ「それでは 皆様 出発進行です！」

するとどこからともなく線路が空中に出現しそれに沿ってゴリラ
デットマンにタックルをする

ががあ！

カ「いくぜ！」

マンモス スタンピングファイニッシュ！

カ バ「はあああああ！」

その時

「はああー！」

カ「ぐはあ!？」

バ「おわっ!?!、ちよつとだれ！」

どこからか 敵の攻撃が飛んできた

? 「ここでこいつを倒させる訳には行かないんだ、」

カ「!誰だ!お前」

「俺はフリオー!悪いがこいつは倒させることは許さない」

カ「なんだと、」

フ「こいつは フェーズ2への進化をさせる、それを邪魔させる訳にはいかないんだよ」

バ「フェーズ2?何それ」

フ「貴様らは知る必要は無い
はああ！」

カ「ぐはあ！」

バ「おわあ！」

め「カズマ！」

ぎゃあ！

め「！」

カ「くっそ こいつ今までの奴とは訳が違う！」

バ「どうすんのさ カズマ！」

カ「、、、 どうするったってまずはあのゴリラを倒す！」

フ「やめておけ!!そのデッドマンを倒したら、大事な仲間を殺してやる」

カ「なんだと、、、！」

め「か カズマ、、、」

カ「めぐみん！さっきまでアクアと一緒に、、、！」

先程めぐみん達がいた所を見ると

崩れた瓦礫にアクアが倒れていた

カ「アクア！」

フ「、、、 さて お前も仲間は殺されたくないだろう、、、取引をしよ
う」

カ「取引だと」

フ「バイスタンプをよこせ」

カ「なに？」

フ「バイスタンプをよこせばこいつは解放してやる 今が10時な
ら

あの壁の上に12時に来い そこで取引だ」

するとフリオはこちらに攻撃をし土煙を起こす

カ「くっ、、、！ いない！」

バ「綺麗に巻かれちゃった、、、」

ア「うう、、、」

カ「！アクア おい しっかりしろ」

ア「うう、、、 カズマ、、、 ごめん めぐみんを助けられな かった」

番外編 花タフとこのすばメンバーのライダー映画
感想言う回

カ「おーつす 花タフはいるか？」

め「あ カズマ どうもです」

ア「あー作者？一応いるにはいるけど、、、」

カ「？なんかあったのか？」

ア「あつちの隅で泣いてるわよ」

花「うう、、、うう、、、」

カ「作者しつかりしろ 今回は仮面ライダーオーズ 復活のコアメ
ダルの感想を話していくって前から決めてたじゃねえか」

花「そうなんだけどさ！、、、まさかあーなるとは思わなかった
よ、、、」

ア「作者は先行上映には行かなかったから公開日の初日に行ったの
よね」

花「朝イチのやつで見に行ったよ 今回のオーズについてはほんと
にどうにかネタバレを回避してたんだ 先行上映されてたのは知っ
てたから それで感想言ってる人の動画とかも見ないようにしたし」

カ「、、、まあとりあえず感想を言っていこうぜ
恐らく大抵の人が作者見たくなくなってると思う」

花「、、、じゃあ話していきます

今回 見たのは仮面ライダーオーズ復活のコアメダル という
オーズ10周年記念作品となっています
先にこの映画の自分の中での評価をいいます

満点が10だとしたら

点数は7点です」

め「まあまあ高い方ではありませんね」

ダ「なぜ7点なんだ？」

花「ええ なぜ7なのかというのは

オーズらしき そして登場人物らしきが満載の作品であつたから

、、でもところどころ尺の問題なのか 説明がふんわりしてるとこ
ろもありましたね」

なので今回は7点という感想です

花「まずこのVシネの目玉はなんと言っても

アंक復活！」

ア「今までは一時的とか未来からとかだったけど今回は完全に復活
ということよね」

カ「他にもキャスト陣が当時の人を全員が出ているって言うのがい
いよね」

め「まあ真木博士はいませんでしたけどね」

花「そして今回のオーズで自分が印象に受けた所を話していきま
す」

花「まず1つ アンク

実はこのVシネ 視点がアンク目線で話が進んでいくんですよね」
ア「ほんとに見てる人とアンクが同じような境遇にあるということ
があつたわよね」

花「アンクは10年越しに生き返ったけど起きたら周りにはボロボロ
そして古代オーズが復活 他のグリードも復活してるという
ダ「改めてアンク視点だと特殊ではあつたな」

花「そして2つ ゴーダの存在」

花「正直言います 自分あまりゴーダが好きでは無いです」

カ「まあ賛否が別れそうなキャラではあつたな」

花「劇中でゴーダはほとんど映司に憑依してるんですよ」

ア「しかも基本的に映司の姿だから映司だけど違うみたいなのが続
くのよね」

花「個人的には タトバに変身した時に 歌は気にするなつて言っ
てとか

コンボにしてつて言った時にタジャドル！つて言つてたのが、、、心
に来たね」

カ「、、、うわあ」

花「結構この作品はオーズ本編のセルフオマージュが強いイメージ
ではありました

話は飛ぶんですが 古代オーズのセルメダルを大量に使つて斧で
切るつても最終回の時のやつだったし

そして3つ

タジャドルエタニティ

カ「あれはあつかったな」

花「あそこでもね あの最終回のオマージュを
してたんですよ」

カ「その前のアंकと本当の映司と再会するのがいいんだよな」
「んで戦い方も最終回と逆で映司が出てきて戦ってるんですよ」

そして最後、、、 火野映司の死
カ「、、、」

花「、、、正直 こうなるとは思ってなかった
確かにゴードラがついてないと命が保てないからしょうがないって
思ってたけど」

カ「まさかここまで逆にするとは思わなかったよな」
映司が死んだのもさ 目を開けながらっていう惨いなあつて思い
ましたよ
その後、、、 Anything Goes ballade です
よ、、、

映画終わった時映画館の人ザワザワ言っていましたからね

「今回の映画は本当に仮面ライダーオーズ 完結編であり
火野映司の最後を描いていた作品ではありません」

もし見見たよという読者の方がいたらコメント欄などで感想など
のを、書いて欲しいです皆さんの感想を知りたいです

仮面ライダーリバイスの名場面をこのすばメンツで
再現

エビル 変身

ア「もう仲良しごっこはおしまい、」

バット

コンファアード

e e n y m e e n y m i n y m o e

e e n y m e e n y m i n y m o e

ア「、、変身」

バーサスアツプ

バットネス！ホープネス！ダークネス

バット！ ハハ！

仮面ライダー エビル！ いやあつひやー！

ア？ 「さあ喧嘩をしましょう」

ア？ 「また 戦いましょう、、 カズマ」

ア(カ)「何故私が生まれたか教えてあげるわ、、、すべてあなたのせいよ、、、カズマ、、、」

ア(カ)「元々天界で過ごしていたのにあなたのせいでこの地上に降ろされた、、、その時によアクアの心の中に私が生まれ始めた、、、そこから今まで静かに過ごしていたけどあなたが悪魔と契約したことが発端だったわ、、、」

カ「、、、」

バ「どうしたんだよー カズマ」

カ「、、、俺はよ、、、どうすればいいんだ、、、アクアは助けたい、、、でもあんなった原因が俺自身にあると思うと、、、」

バ「、、、だったら よっぽどカズマが助けてあげるべきじゃねーか？」

カ「、、、」

バ「それによ、、、あの時俺っちアクアの心の中を覗いて見たんだ」

カ「！ほんとか！」

バ「ああ、、、あの時のアクアは、、、まだ諦めてはなかったぜ」

ライブ 変身

ア「さあ！白黒つけるわよー！」

バット

コンフアード

e e n y m e e n y m i n y m o e

アクアはベルトについている下の部分を上に裏返し銃の形へと変
形させる

e e n y m e e n y m i n y ! m o e !

ア「変身！」

バーサスアツプ!

プレシヤス! トラスト アス!

ジャステイス!

バット!

仮面ライダー ライブ!

デモンズ変身

ダ「この命をかけて、、貴様を止める！」

デモンズドライバー

スパイダー!

Deal

ダ「変身！」

Decide up

deep 深く drop 落ちる Danger

危機

Kamen Rider デモンズ！

ジャンヌ変身

め「私は、、、やっぱり弱かったです、、、ですが

自分の弱さを知った私は 無敵です！」

コブラ

What's coming up!

What's coming up!

め「変身！」

リベラルアップ！

ah~ going my way~

仮面ライダー ジャ ジャ ジャ ジャンヌ

ラ「ラブー」

カ「あれってまさか めぐみんの悪魔か！」

バ「ええ!？」

め「ええ それが今までの私です どうか 守ってあげてください

い

ア「あ！見て！」

ラ「コ　コブ　コブー　いて！　コブー、、、」

バ「いやめっちや弱いんですけど、、、」

デッドマンズのアジトをカゲロウに聞こうとする場面

ダ「デッドマンズのアジトか、、、」

カ「、、、どうすれば入る方法が分かる、、、」

め「1つ思いついたのですが」

カゲロウなら知っているのでは無いですか？」

カ「、、、」

ダ「、、、」

カ　ダ「あ！」

3人は一斉にアクアに視線を移す

ア「へ？」

カ「確かに あいつデッドマンズの奴らと関わってたからな、、、場所も知ってるかもしれねえ。

ということであクア、カゲロウに変わってくれ」

ア「え？ いやいやいや！ 待って待って！ そもそもどうやってあいつを出すのよ！」

め「いえ 方法はひとつありますよ」

ダ「方法？」

ア「あの、、、ほんとにやるの？」

カ「ダクネスーめぐみん しっかり抑えててくれよ」

バ「それにしてもカゲロウ呼ぶためにわざわざライダーキックをするとはねー」

ラ「ラブー」

め「カゲロウからアクアに戻す時もライダーキックを使用しましたなら今の状態でライダーキックをすればきつとカゲロウに変わるはずですよ ということでカズマよろしくお願いします」

カ「ほんとにやんだなー アクア 避けんなよ！」

ア「ちよちよ！ほんとに！ホントにするの!？」

ダ「我慢だアクア、、、正直羨ましいぞ、、、」

カ「お前は羨ましがるな！」

レックス スタンピングファイニッシュ!

ア「い 痛くしないで」

カ「はあああああ!」

バ「おお!どうなった!」

ア(カ)「うう、、なんの用?」

ダ「どうやら 成功したようだ」

め「カゲロウ 頼みがあるのです」

ア(カ)「頼み?」

ダ「ああ カゲロウ お前は以前デッドマンズの奴らと絡んでいたな」

ア(カ)「ええ それがなに?」

カ「単刀直入に聞く 奴らのアジトにはどうやって入れる」

ア(カ)「ふっ私がそんな言うと思うか?」

ダ「ならば私たちのライダーキックもくらうか? 私たちはカズマ程手加減はしないぞ、、」

ア(カ)「、、まだ教えないとは言ってないじゃない、、なら条件があるわ」

ア「もう、、取り返しがつかないのよ、、もう!私は、、」

ダ「まだ!やり直せる!失敗したっていい、大事なはその失敗から、どうするかだ、、」

ア「ダクネス!」

ア「、、、わかんない、、、どうすればいいのよ、、、助けて、、、助けてよ、、、」

カゲロウ、、、」

「全く、、、やっと助けを求めたわね」

ア「カゲロウ、、、生きてたの、、、」

「いつ死んだなんて言ったのよ 私はそのつの中にずっといたの」
「でも、、、私はあなたとの戦いを無駄にしたくなくて、、、」

perfect Wing!!

コンファアード

Wings for the future! (future!)

Wings for the future! (future!)
ア カ「変身！」

Fly high!

perfect up!

HA HA HA !

仮面ライダー エビリテイ、

ラブイブゥ!

I'm perfect!!

カ「アクア、」

ア「カズマ、ごめん それと、ただいま」

カ「ああ おかえり」

48話再現

カ「、、」

狩「まだ、、 まだだ！私は、、 あの男に、、 勝つんだ、、」

ミ「もういいじゃないですか 狩崎さん」

カ「ミツルギ、、」

ミ「真澄さん あなたとも思い出をこの世界にも持ってきていたんです」

狩「……そんなのはどうでもいい……
そんなのはどうでもいいんだよ!!」

カ「……全部 狩崎さん、あなたのアイディアから始まったんです
ね」

ミツルギが持ってきた10枚の絵
それぞれに

レックス

メガロドン

イーグル

マンモス

ライオン

プテラ

カマキリ

コング

ジャツカル

ブラキオ

が描かれていた

カ「真澄さんは、あなたとの思い出を大切にしていたんですよ」

狩「、、、ダデイ、、、俺じや無理だよ、、、

ダデイ！会いたいよ！

ダデイ！！なんで先に逝くんだよ！

まだ話してないことがあるのに！

ねえ！ダデイ！、、、」

カ「狩崎さん、、、」

バ「へへっ これにて一件落着つてか」

め「いました！カズマー！」

ダ「良かった、、、無事説得は出来たようだな」

ア「はあー 一時はどうなるかと思うたわー よく
やったわね

カズマ」

バ「ちよいちよーい！俺っちも含めてよ！」

ア「悪魔にお礼なんて二度とごめんよ」

カ「、、、」

ミ「、、、 どうした？カズマ」

め「、、、 かずまー？」

ダ「カズマ？」

バ「カズマ、、、 まさか、、、 嘘だろ、、、」

め「、、、 カズマ、、、」

ダ「、、、」

カ「なあ バイス

この人達
だれ？」